

「妾が此の前は居なかつたからね、

あんたなの、春子が好きだつて」

無想庵は、ワツセルマンの反應があつたとかなかつたとか言つた。

神經衰弱が嵩じて何にも書けないし、時々昏倒すると言つた。

「僕のワイフも觀音經をやるよ。」

君の信仰は羨やましいよ」

無想庵は言つた。

「發狂したつて、今でも尾行するのかね。」

誰でも若い時は發狂するからね。

誰でも觀音様に見えるよ」

新吉は下腹が絞られるやうに疼いた。

大阪で食べた鰻が、紅門から出そうでムズムズした。

「久さん、久さん」